

水鳥を見に行こう！

レンジャーオスズの観察ポイント。
漁港などでの観察は、漁師さんの迷惑にならないように気をつけましょう。



ラムサール条約湿地の範囲

タンチョウ

1年中北海道に生息しています。春から秋は風蓮湖等、道東各地の湿原で繁殖し、厳冬期は釧路地域で過ごします。風蓮湖では約30つがい繁殖しており、8～12月には、その年に生まれた幼鳥を見ることもあります。



オススメシーズン 観察ポイント A、B、C、D、E

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----

ガン・カモ・ハクチョウのなかま

越冬地に向かう途中で風蓮湖や根室湾に飛来します。オオハクチョウは11月中旬がピークで3千羽前後が立ち寄り、風蓮湖が結氷する1、2月は、根室湾などの海側で一部残って越冬する海ガモ類の観察を楽しめます。



オススメシーズン 観察ポイント A、B、C、D、E

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----

シギ・チドリのなかま

春・秋の渡りの途中、風蓮湖の干潟に約40種、最大時で2,000羽ほどが飛来します。また4月下旬には、春国岱の干潟にミヤコドリが40羽程度が立ち寄り、早春の風物詩となっています。観察の際は、干潮前後の時間がオススメです。



オススメシーズン 観察ポイント B、E

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----

根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター

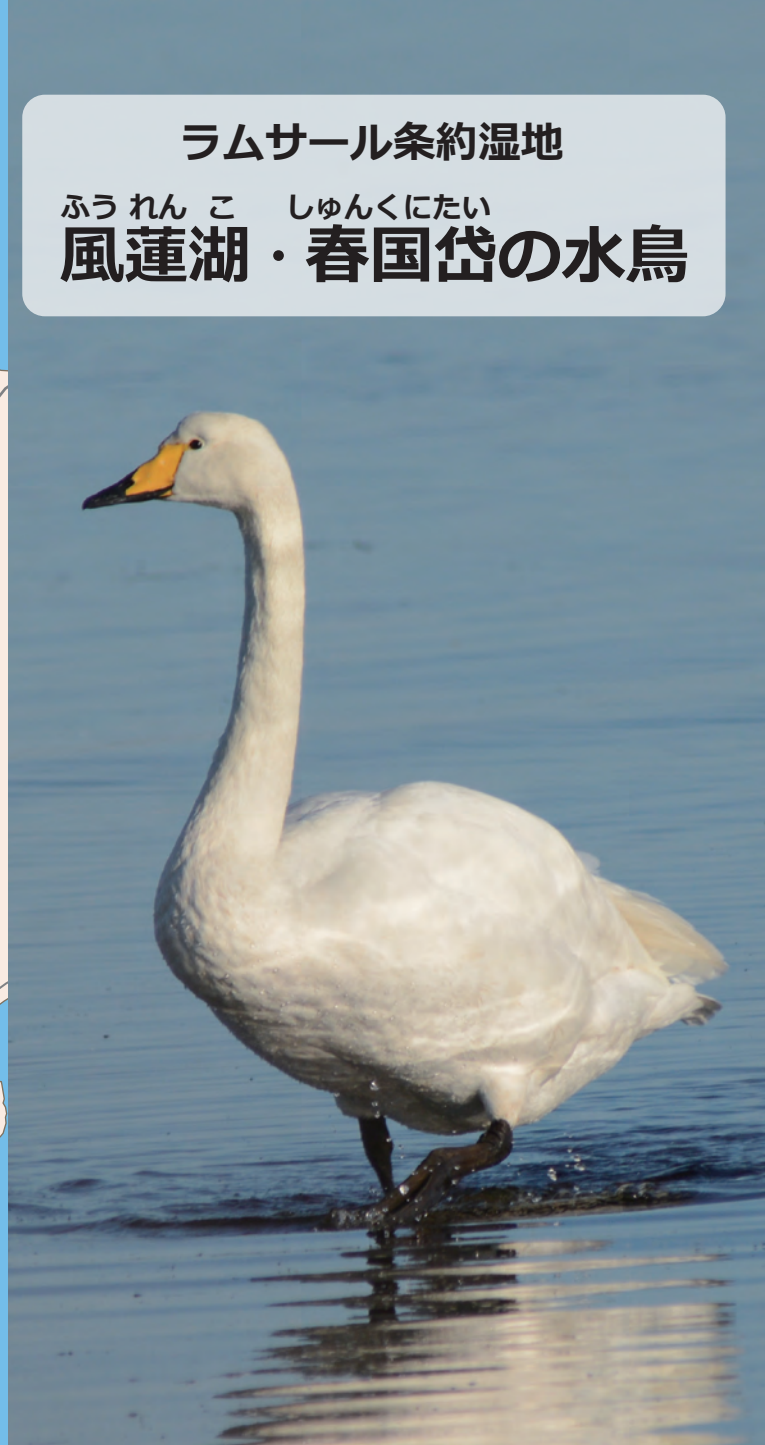
開館時間：4月～9月：9:00～17:00 10月～3月：9:00～16:30
休館日：水曜日（祝日の場合、その翌々日）祝日の翌日（土・日曜日は除く）
年末年始（12/29～1/3）

〒086-0074 北海道根室市東梅 103
TEL 0153-25-3047 FAX 0153-25-8570
E-mail nemu_nc@marimo.or.jp
最新情報は facebook.com/shunkunitai をご覧ください



ラムサール条約湿地

ふうれんこ しゅんくにたい
風蓮湖・春国岱の水鳥



根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター

水鳥の国際空港 風蓮湖・春国岱

風蓮湖・春国岱は、日本の野鳥の半分以上の種類の記録されている場所です(339種)。その9割を占める渡り鳥は、繁殖地(夏)や越冬地(冬)、渡りの中継地(春・秋)として利用しており、特に数多く渡ってくる水鳥にとって、国境を越えて飛んでいく途中で翼を休める国際空港のような役割を果たしています。このことから、湿地と水鳥を守るための条約、ラムサール条約の「国際的に重要な湿地(ラムサール条約湿地)」に登録されています。



2005年に
ラムサール条約湿地に登録

旅をする鳥たち

ガン・カモ・ハクチョウのなかま



秋～冬／春
(渡り途中に立ち寄る)
風蓮湖で見られる時期:
10月～11月/
3～5月



秋～冬～春
(越冬)
根室湾で見られる時期:
9月～4月
※ホオジロガモは10月～4月

シギ・チドリのおなかま



**春／
晩夏～秋**
(渡り途中に立ち寄る)
風蓮湖で見られる時期:
4～5月/
8～9月



渡りをする水鳥の通り道 フライウェイ

渡り鳥は毎年ほぼ同じルートを通ります。そのうち、水鳥の渡るルートは、全世界で9つのフライウェイに分けられ、日本を通る渡り鳥のルートは、「東アジア・オーストラリア地域フライウェイ」に含まれます。このフライウェイは、北は極東ロシア・アラスカから南はオーストラリアまでの多くの国と地域にまたがっています。風蓮湖・春国岱で見られる渡り鳥は、このフライウェイを国や地域に関係なく行き来しているのです。



シギ・チドリ類のおもな渡りのルート

国の枠を超えた協力が必要!

渡りをする水鳥とその生息地、同じ環境を利用する人たちの暮らしを守るため、2006年に国際的な枠組みとして「東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ」が発足しました。参加している国や団体は、情報交換や技術協力などを行い、水鳥にとって重要な生息地はネットワークを作って、保全に取り組んでいます。



2010年に水鳥フライウェイの重要生息地のネットワークに参加

風蓮湖・春国岱は、ガンカモ類、シギ・チドリ類、ツル類の3つの種群で重要生息地ネットワークに参加。春国岱ネイチャーセンターでは普及啓発や保全・調査などの活動をしています。

重要生息地に選ばれた理由

- ◆絶滅のおそれのある種(タンチョウとヘラシギ)が生息
- ◆毎年50,000羽前後の渡り途中のガンカモ類が飛来
- ◆下記の種の個体数の1%以上が定期的に飛来・生息
 - ※ハジロカイツブリ、オオハクチョウ、ヒシクイ(亜種ヒシクイ)、コクガン、ヒドリガモ、ヨシガモ、オナガガモ、ウミアイサ、タンチョウ、キアシシギ、キョウジョシギ
- ◆メダイチドリの地域個体群の個体数の0.25%以上(50羽以上)が、定期的に渡来

